

2021年3月期 決算説明資料



ニチレキ株式会社

目次

- I . 2021年3月期 決算概要
- II . 2022年3月期 業績予想
- III . 新中期経営計画の概要
- IV . 会社概要

I . 2021年3月期 決算概要

2021年3月期の事業環境



日本経済の概況

- ◆新型コロナウイルス感染症により、厳しい状況で推移
- ◆各種政策等で一部持ち直すも、収束見通しは立たず、景気の先行きは依然不透明

当社グループを取り巻く事業環境

- ◆公共工事は堅調に推移するも、受注競争は激化
- ◆原油価格は低位推移から上昇へ

2021年3月期の主な取り組み事項



中期経営計画『Next 2020』（2016年度～2020年度）の最終年度として、「**市場の拡大と深耕**」を最重点課題とする成長戦略に基づき、以下の重点施策に取り組んだ。

- ① 顧客の拡大
- ② 研究開発力の強化
- ③ コーポレート・ガバナンスの強化

Next 2020目標（連結）

売上高	63,000百万円
営業利益	6,000百万円
経常利益	6,000百万円

決算概要

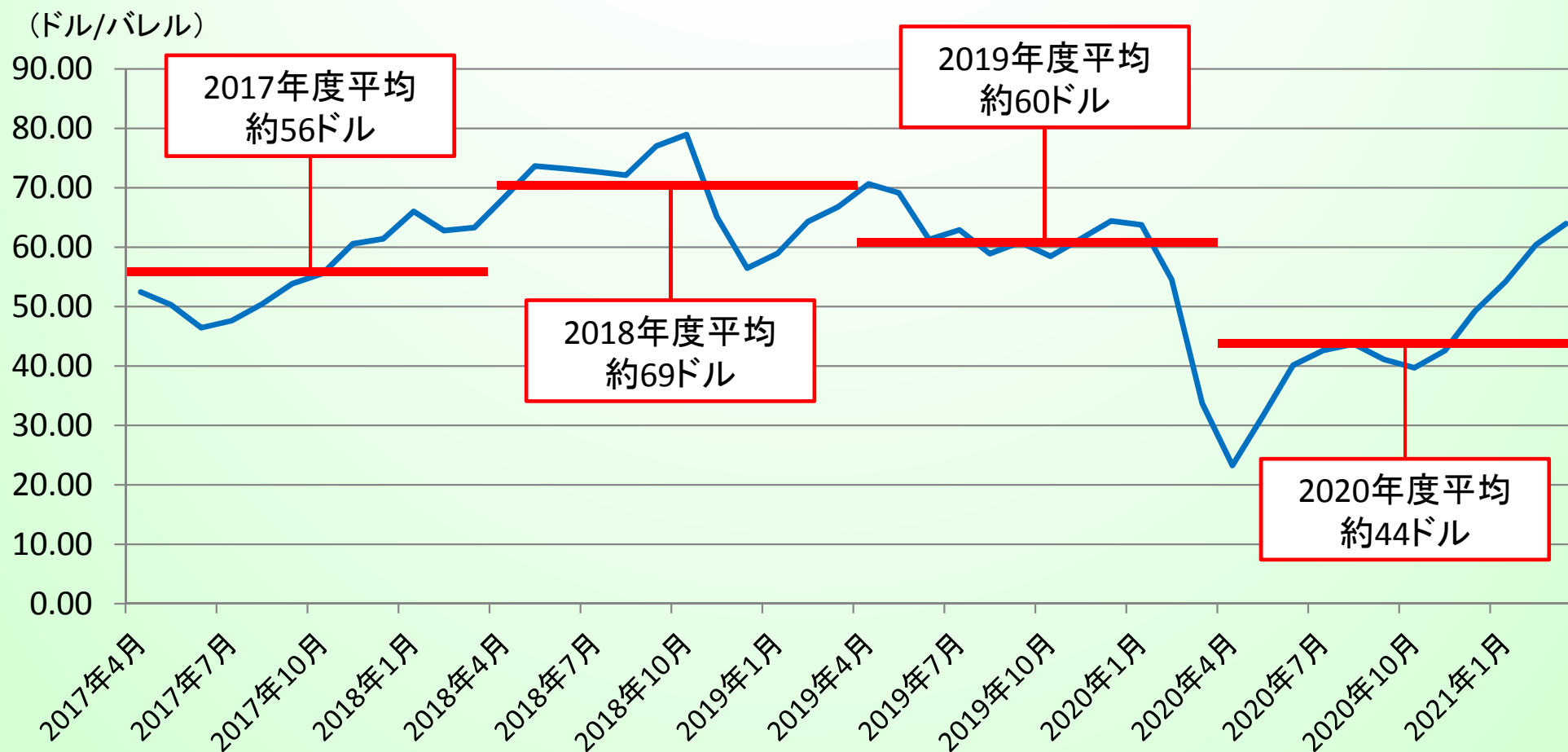


- ◆ 原材料価格の低位推移
- ◆ 「長寿命・高性能化」、「環境負荷低減」等、高付加価値品の販売推進
- ◆ 前年度繰越工事の着実な消化
- ◆ 道路インフラ老朽化対策工事等の着実な受注と工事執行

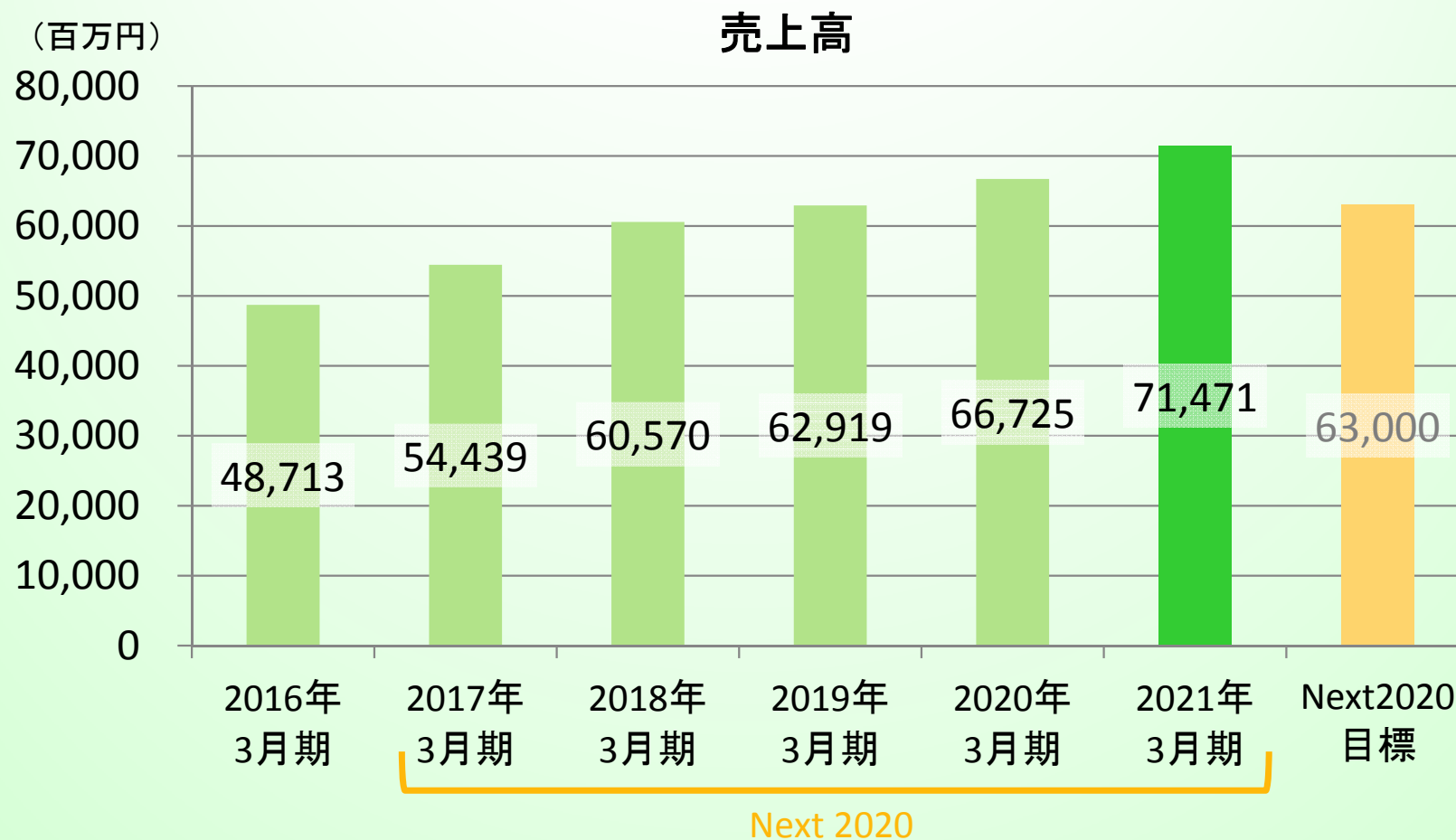
(単位:百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	対前期増減	対前期増減率
売上高	66,725	71,471	4,746	7.1%
売上総利益	15,000	18,436	3,435	22.9%
販売費及び一般管理費	8,990	9,296	305	3.4%
営業利益	6,009	9,140	3,130	52.1%
経常利益	6,225	9,574	3,349	53.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,821	6,357	4,535	249.0%

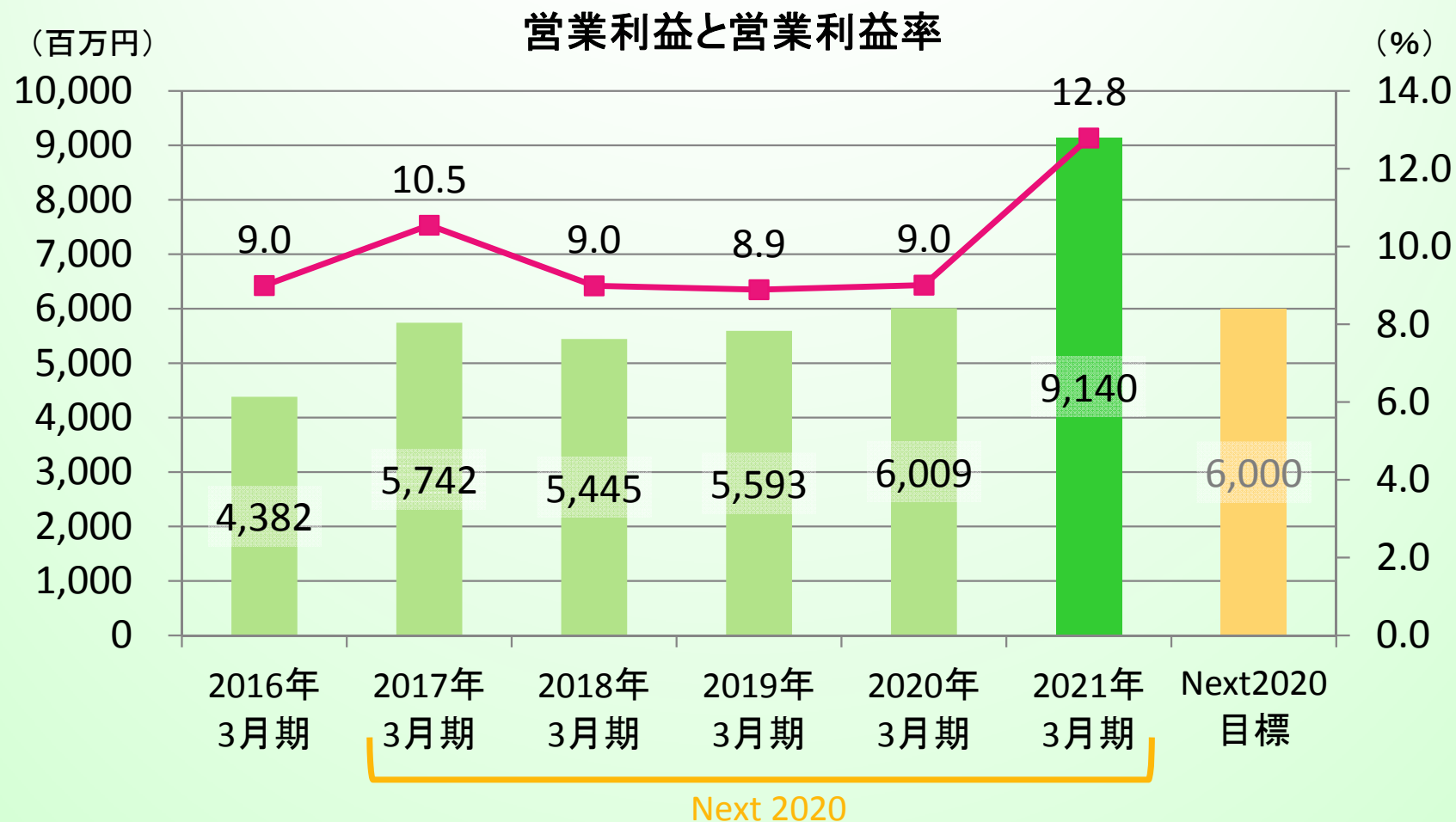
参考:ドバイ原油価格



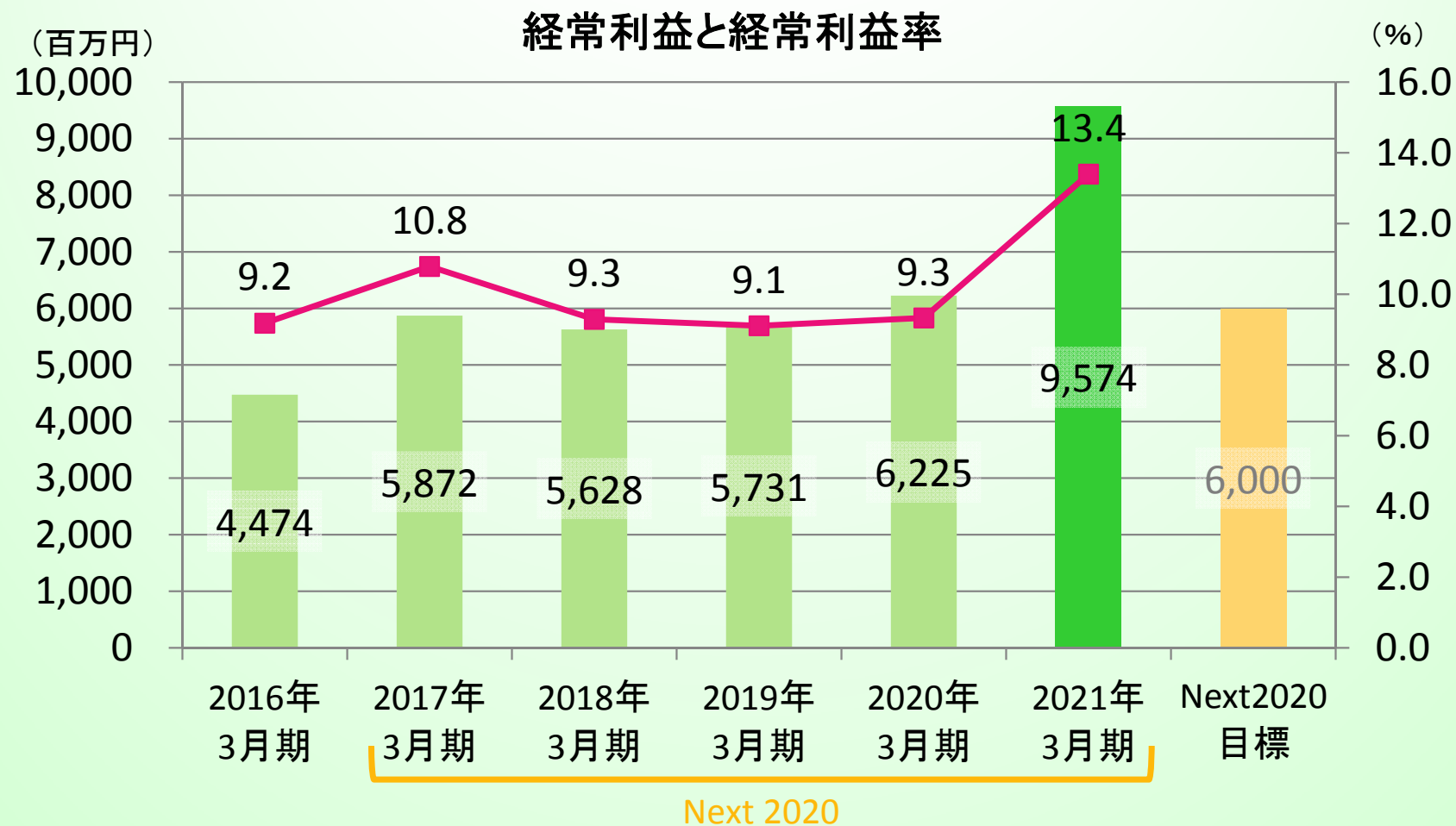
「Next 2020」期間の業績推移①



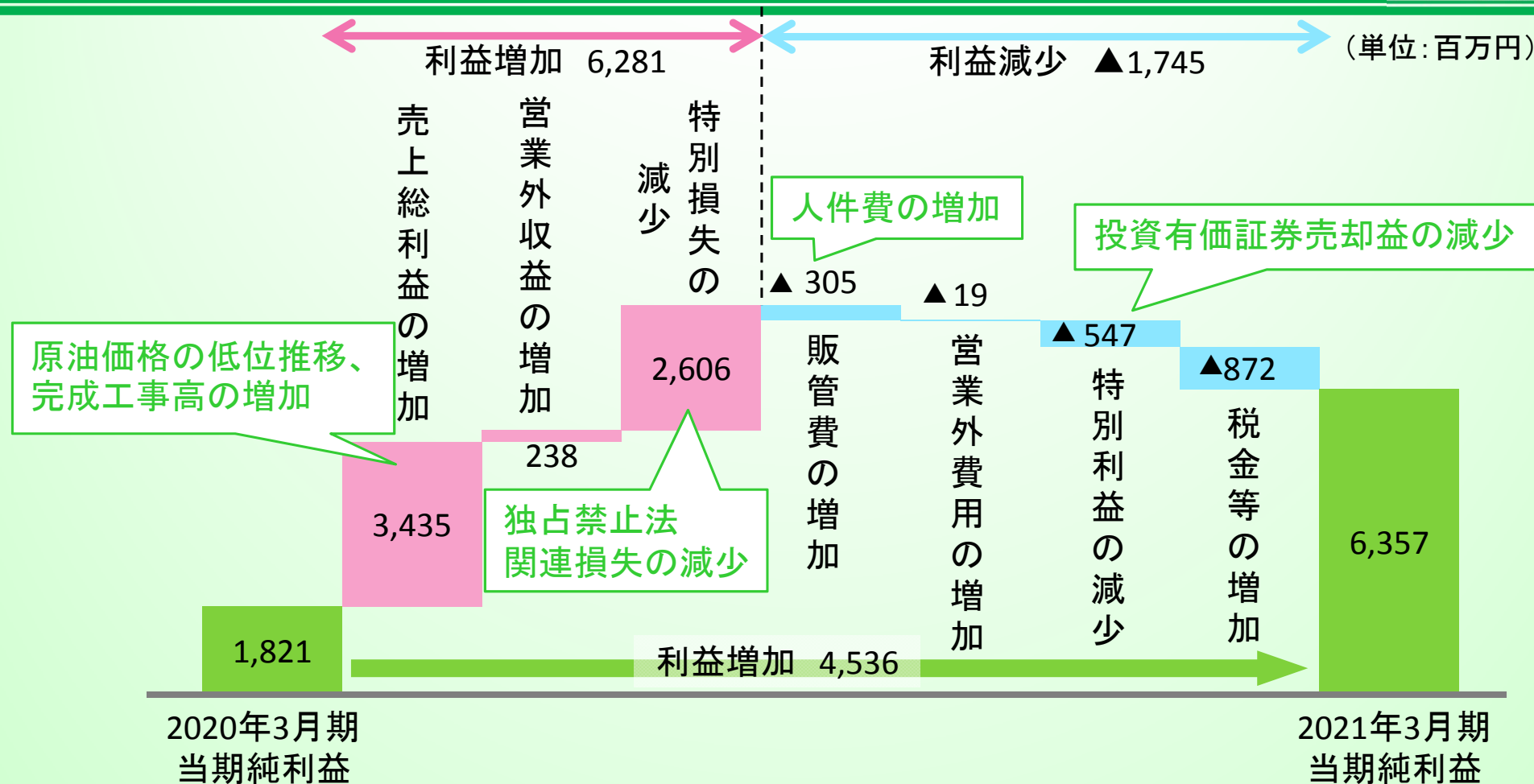
「Next 2020」期間の業績推移②



「Next 2020」期間の業績推移③

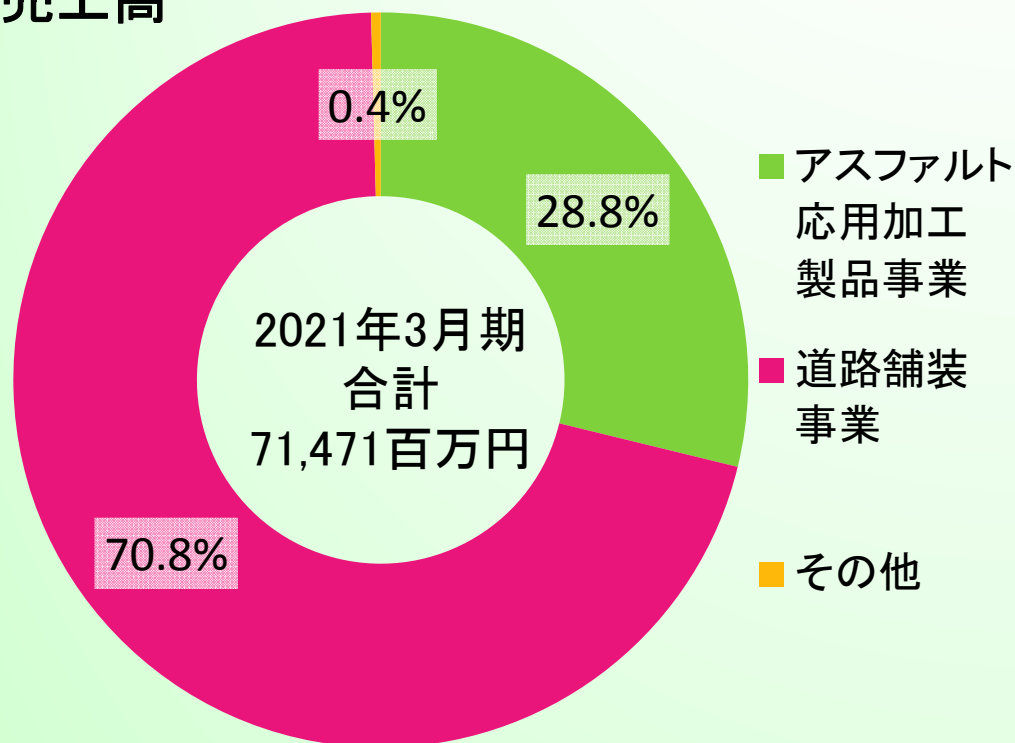


当期純利益の増減要因分析

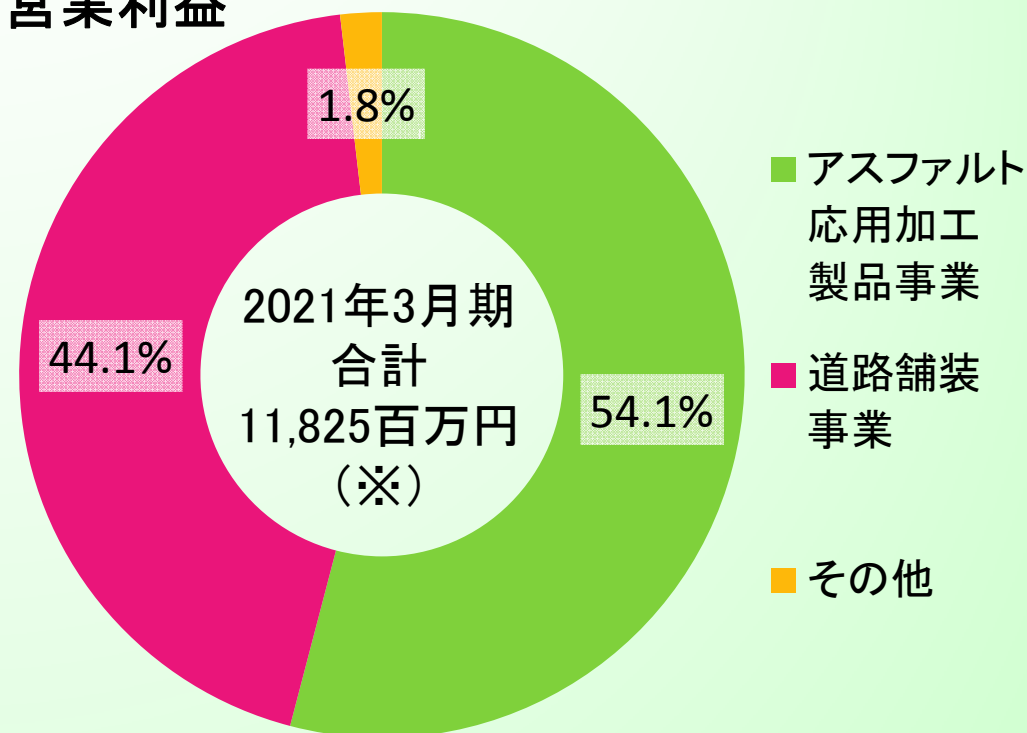


セグメント別業績比率

売上高



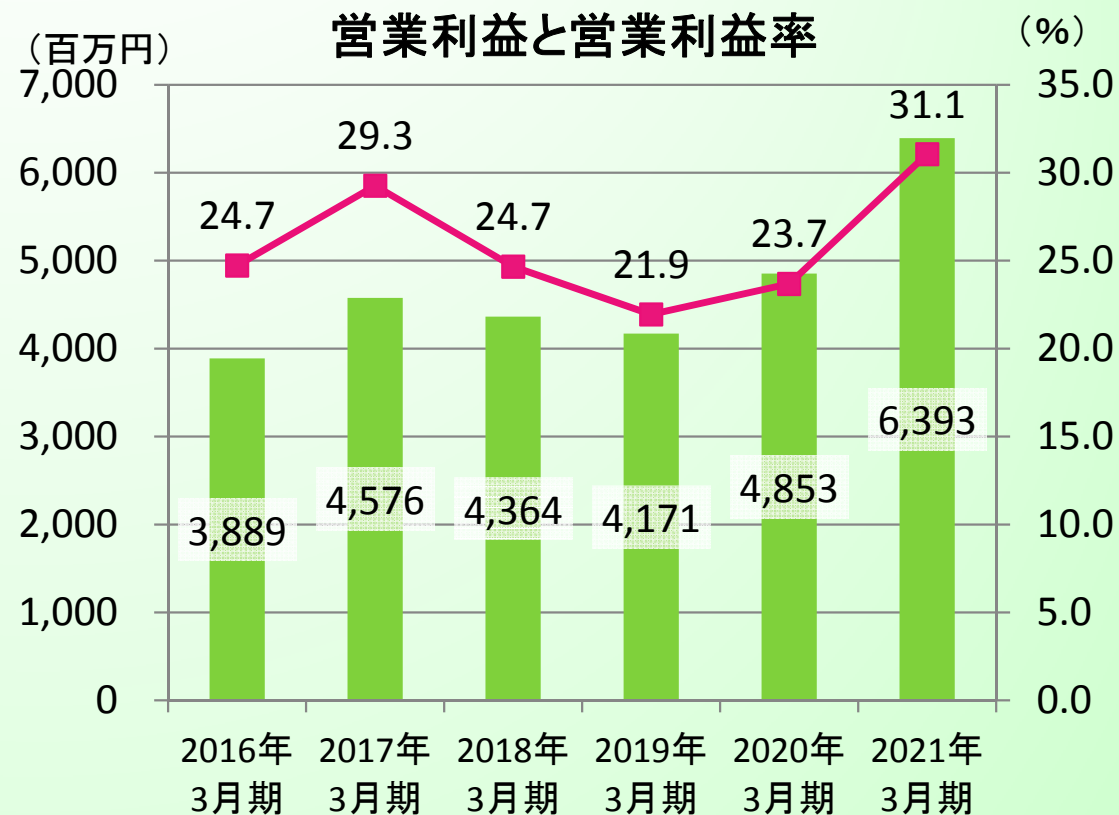
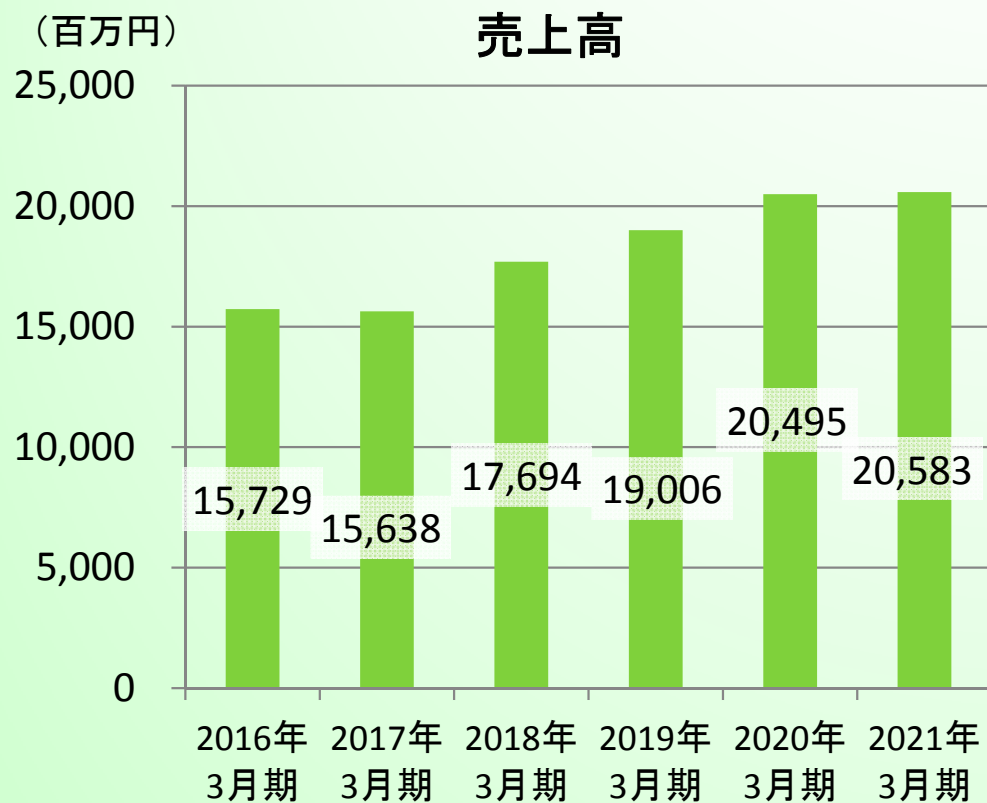
営業利益



※: セグメント間取引消去および全社費用の調整額
2,684百万円を控除する前の金額

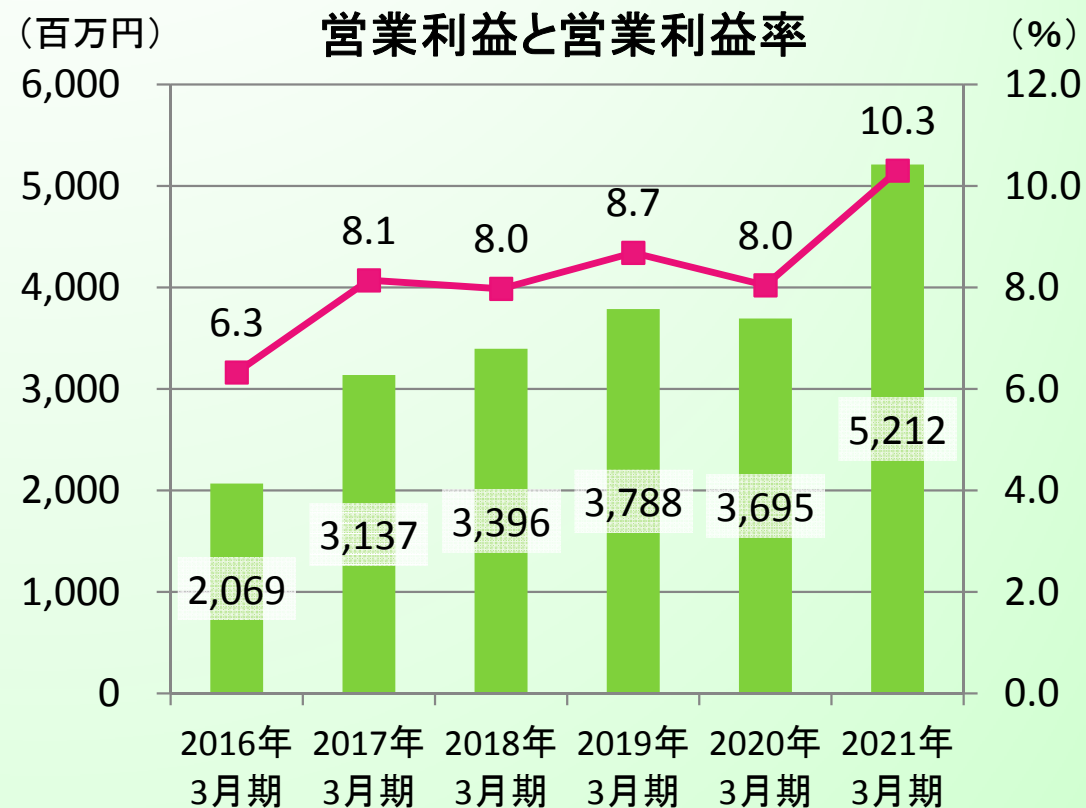
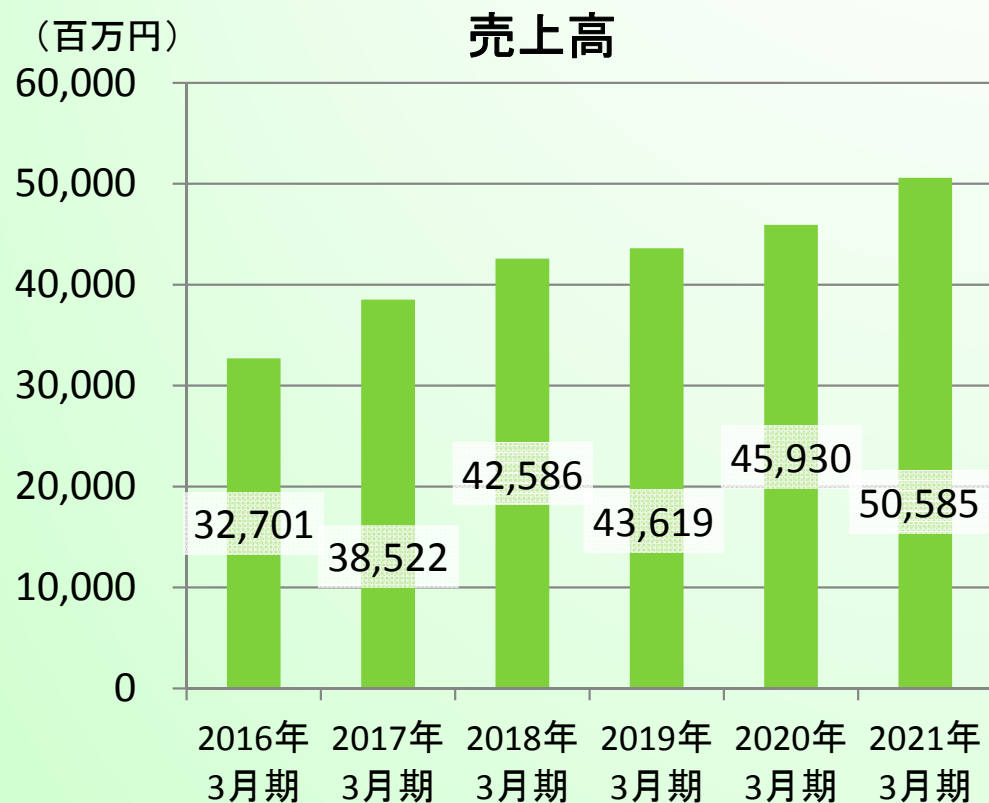
セグメント別業績推移①

◆アスファルト応用加工製品事業



セグメント別業績推移②

◆道路舗装事業



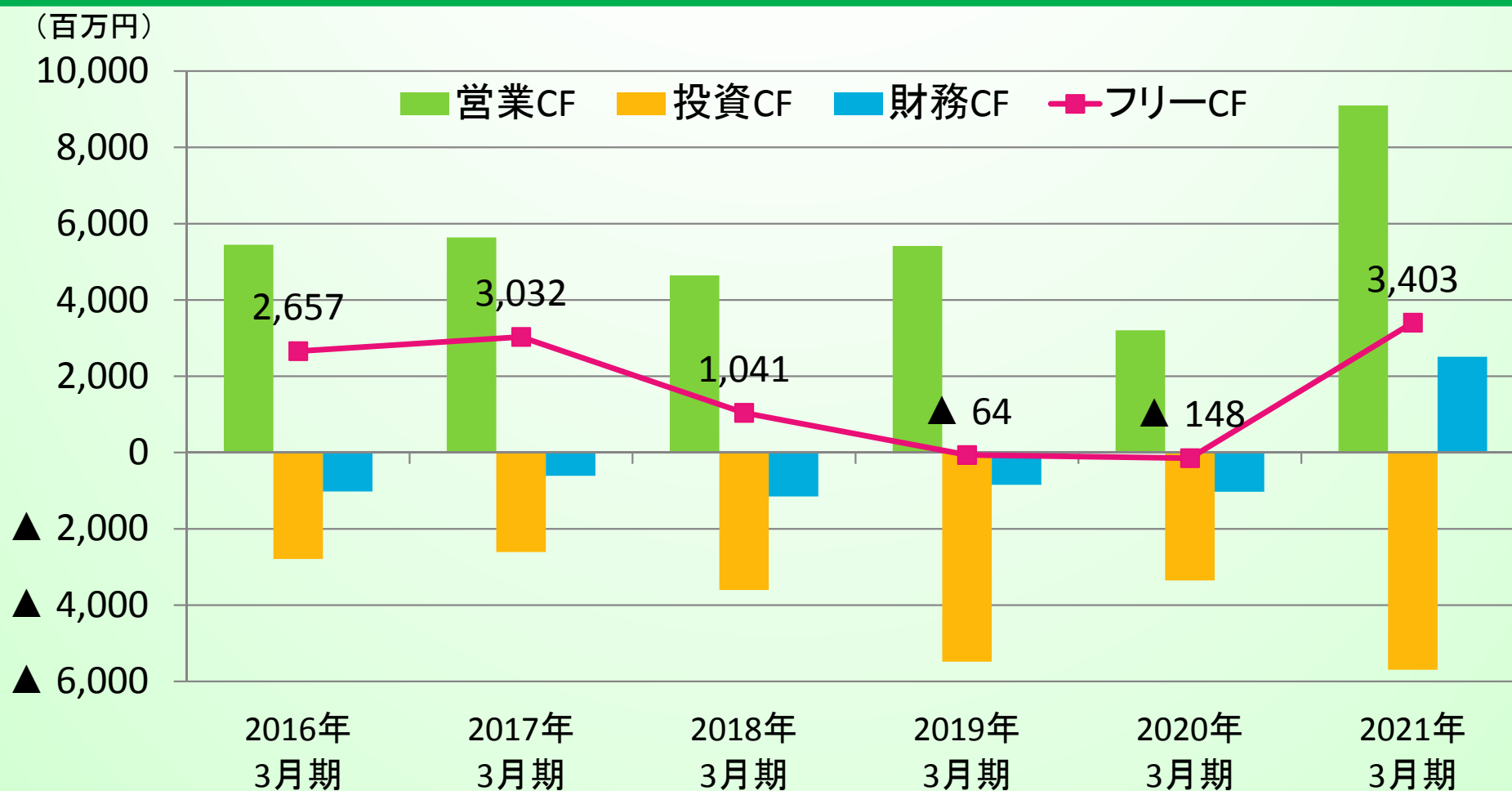
貸借対照表



(単位: 百万円、()内は対前期増減)

資産の部 82,732 (+11,245)	流動資産 52,076 (+6,239)	流動負債 18,926 (+2,383)	負債の部 20,722 (+2,063)
		固定負債 1,796 (▲320)	
	固定資産 30,656 (+5,005)	純資産 62,010 (+9,182)	純資産の部 62,010 (+9,182)

連結キャッシュ・フローの推移



Ⅱ．2022年3月期 業績予想

業績予想①



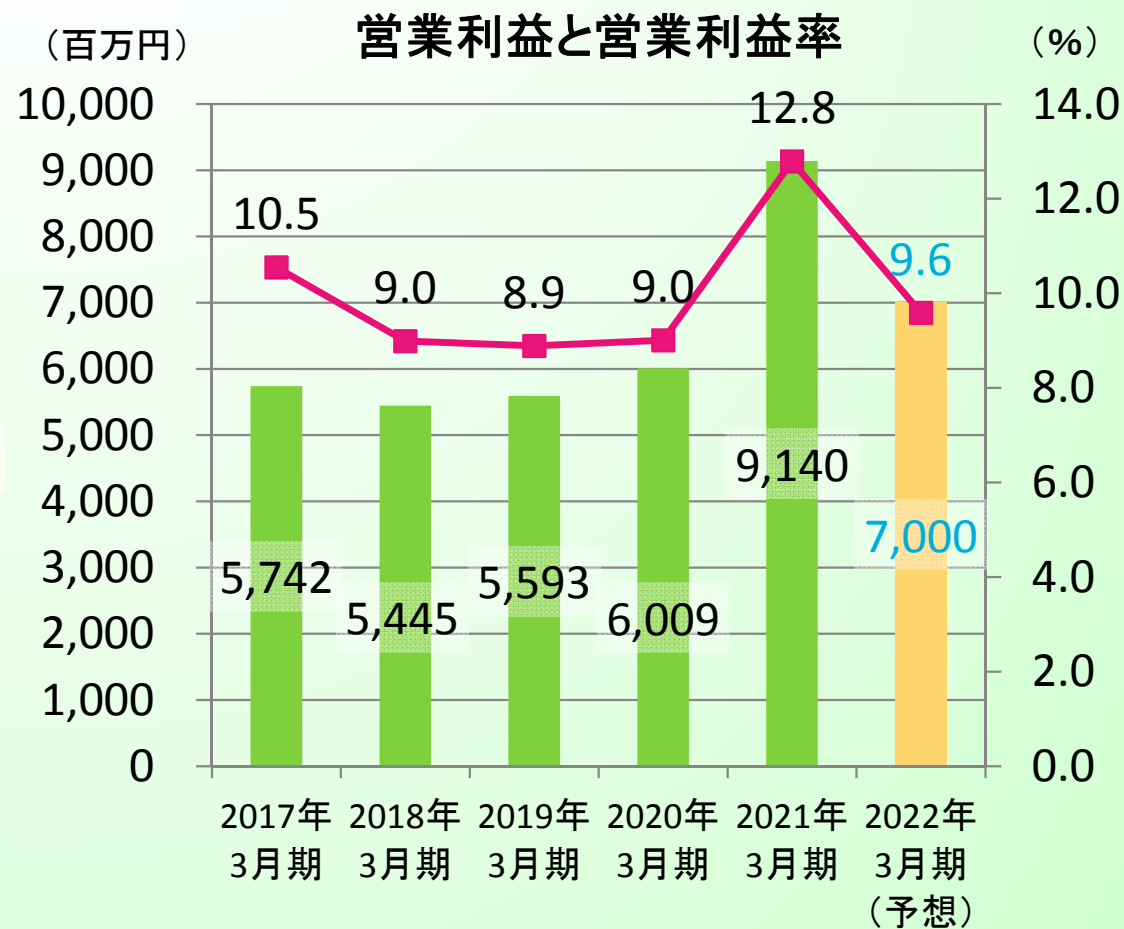
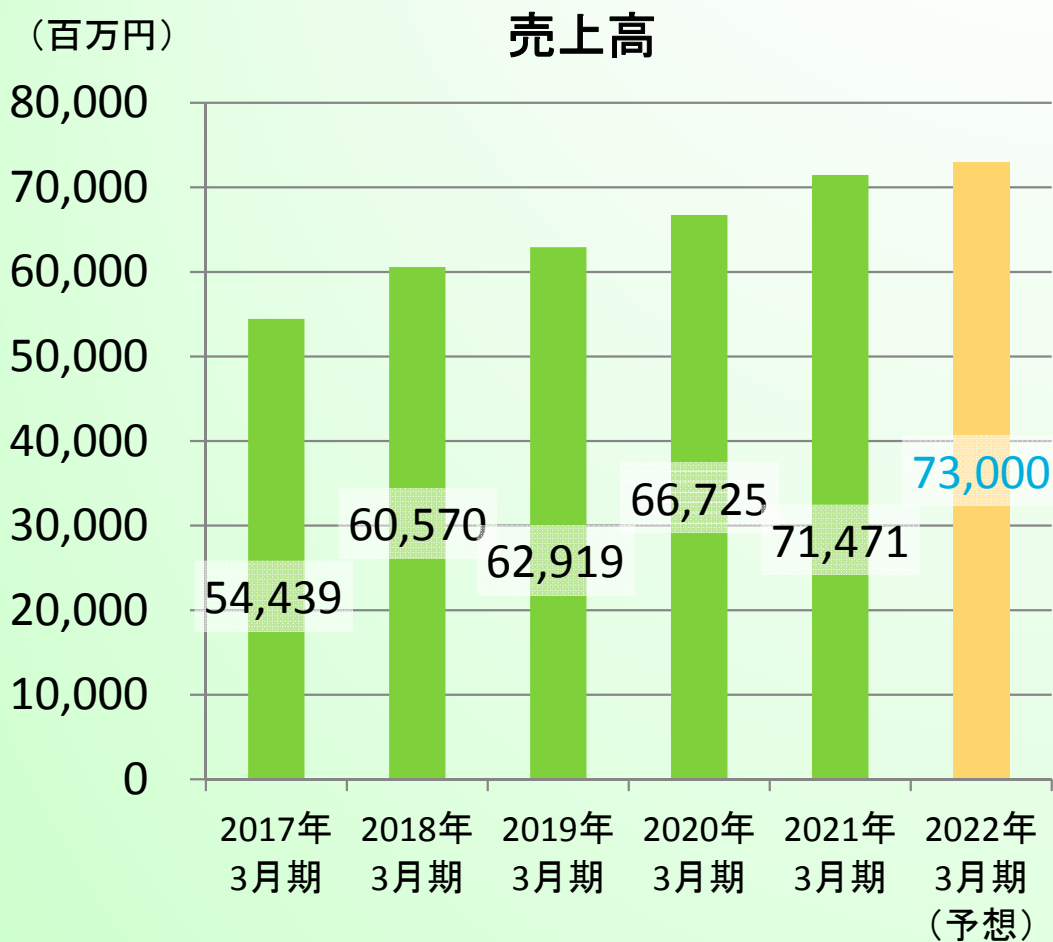
- ◆ 防災・減災、国土強靱化対策など、建設需要の高まり
- ◆ 企業間の熾烈な受注競争
- ◆ 原油価格・為替レートの変動等による原材料価格への影響

(単位:百万円)

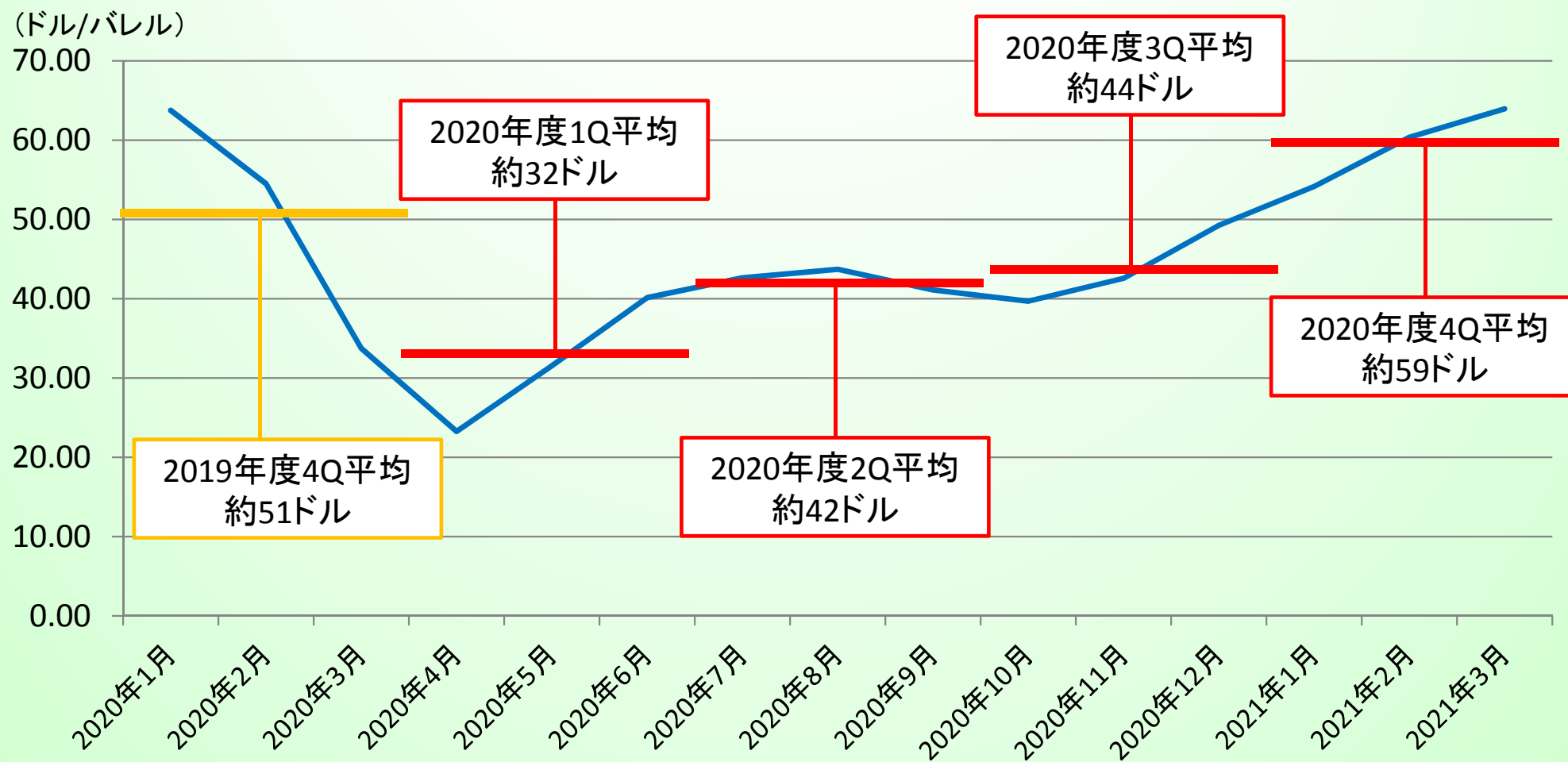
	2021年3月期	2022年3月期 (予想)	対前期増減率(※)
売上高	71,471	73,000	—
営業利益	9,140	7,000	—
経常利益	9,574	7,200	—
親会社株主に帰属する当期純利益	6,357	4,400	—

※: 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は不記載

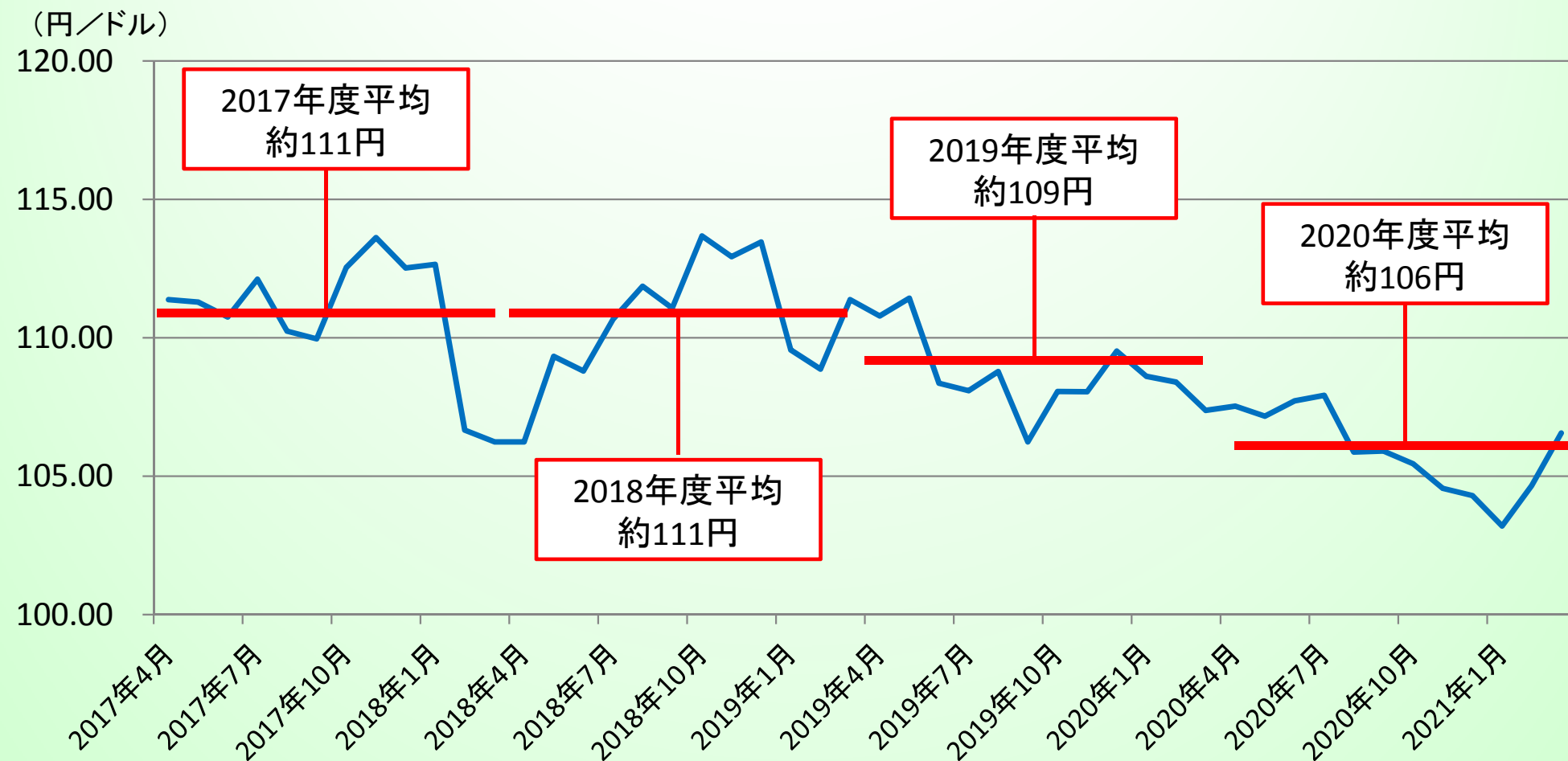
業績予想②



参考:ドバイ原油価格

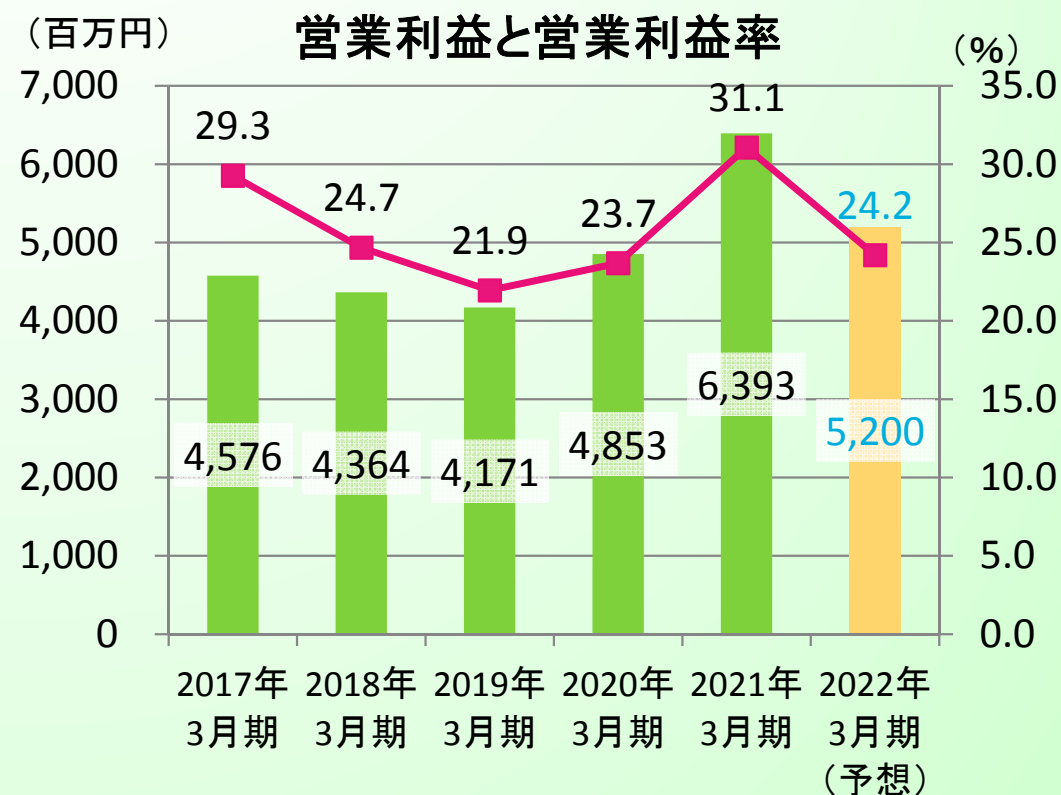
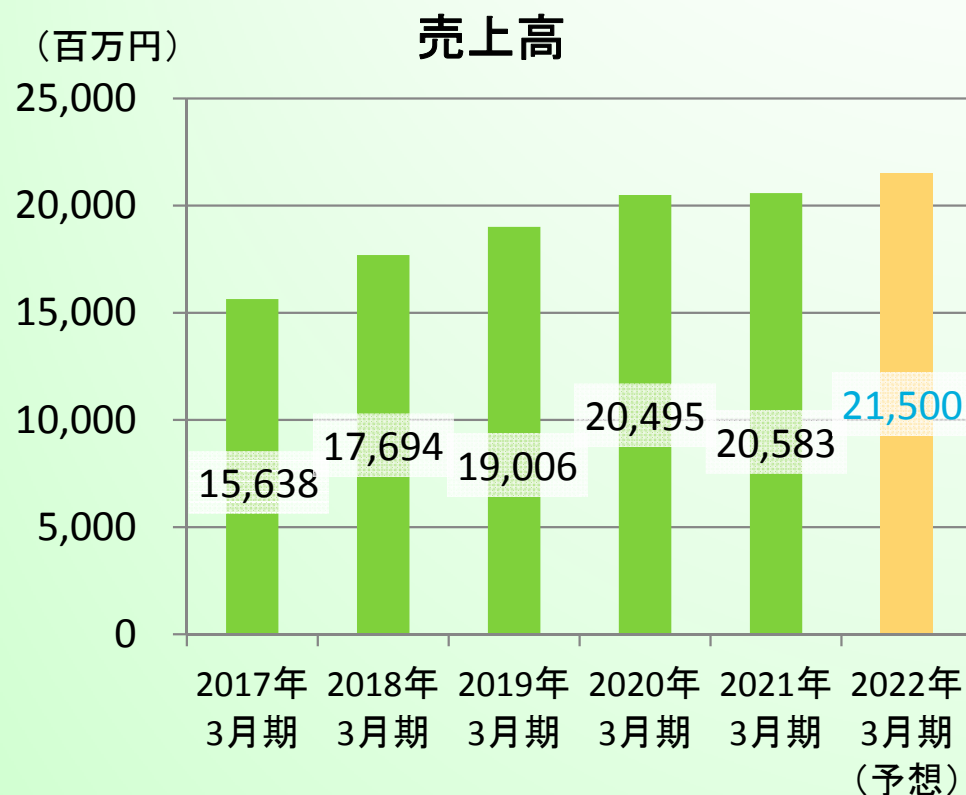


参考：為替レート



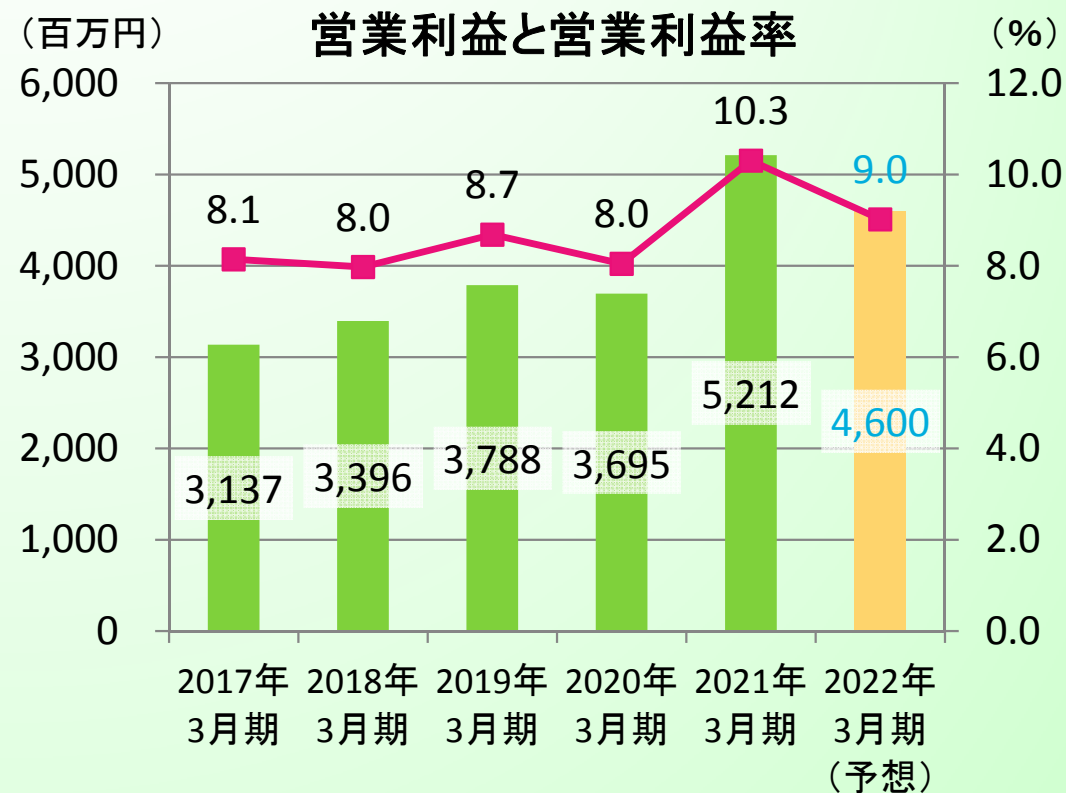
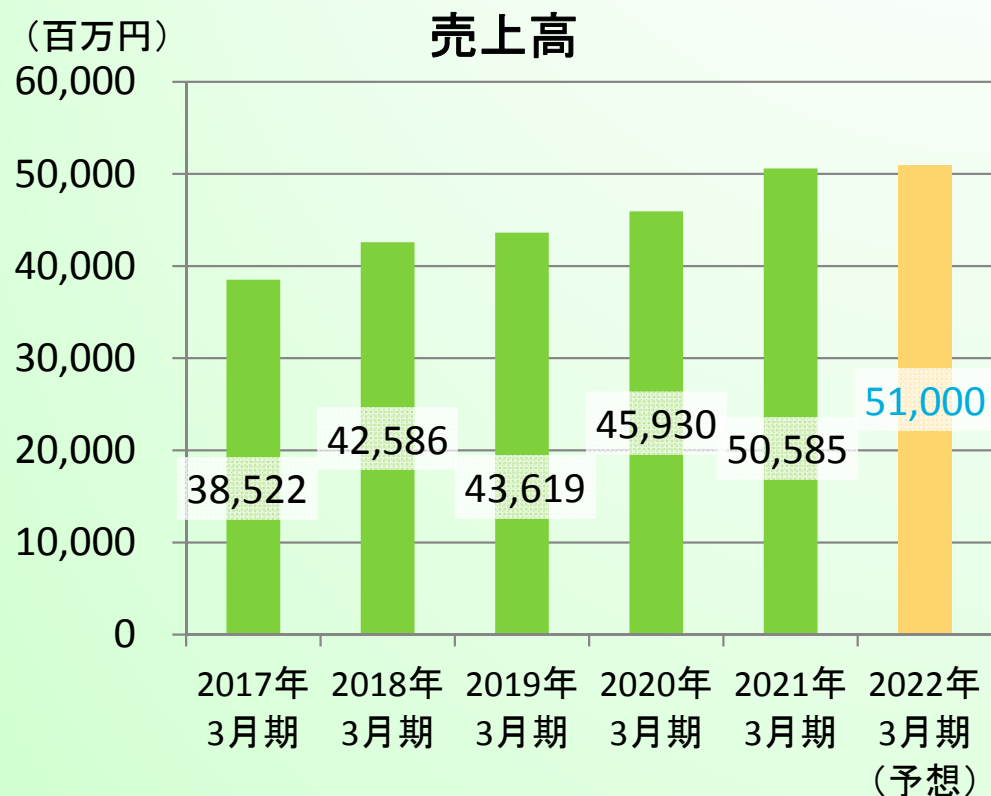
セグメント別業績予想①

◆アスファルト応用加工製品事業



セグメント別業績予想②

◆道路舗装事業



Ⅲ. 新中期経営計画の概要

基本方針



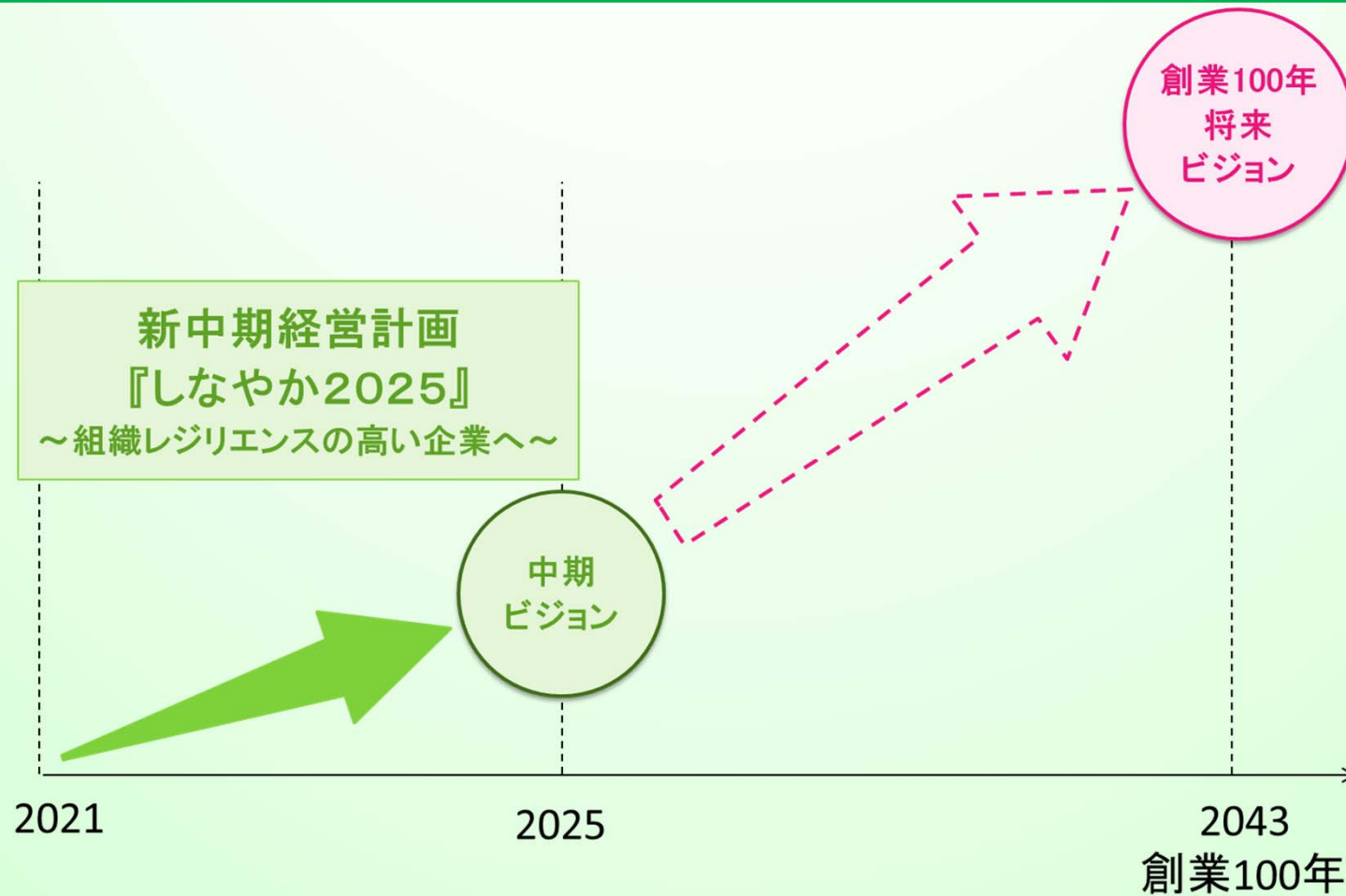
第10次中期経営計画(2021年度～2025年度)

しなやか2025

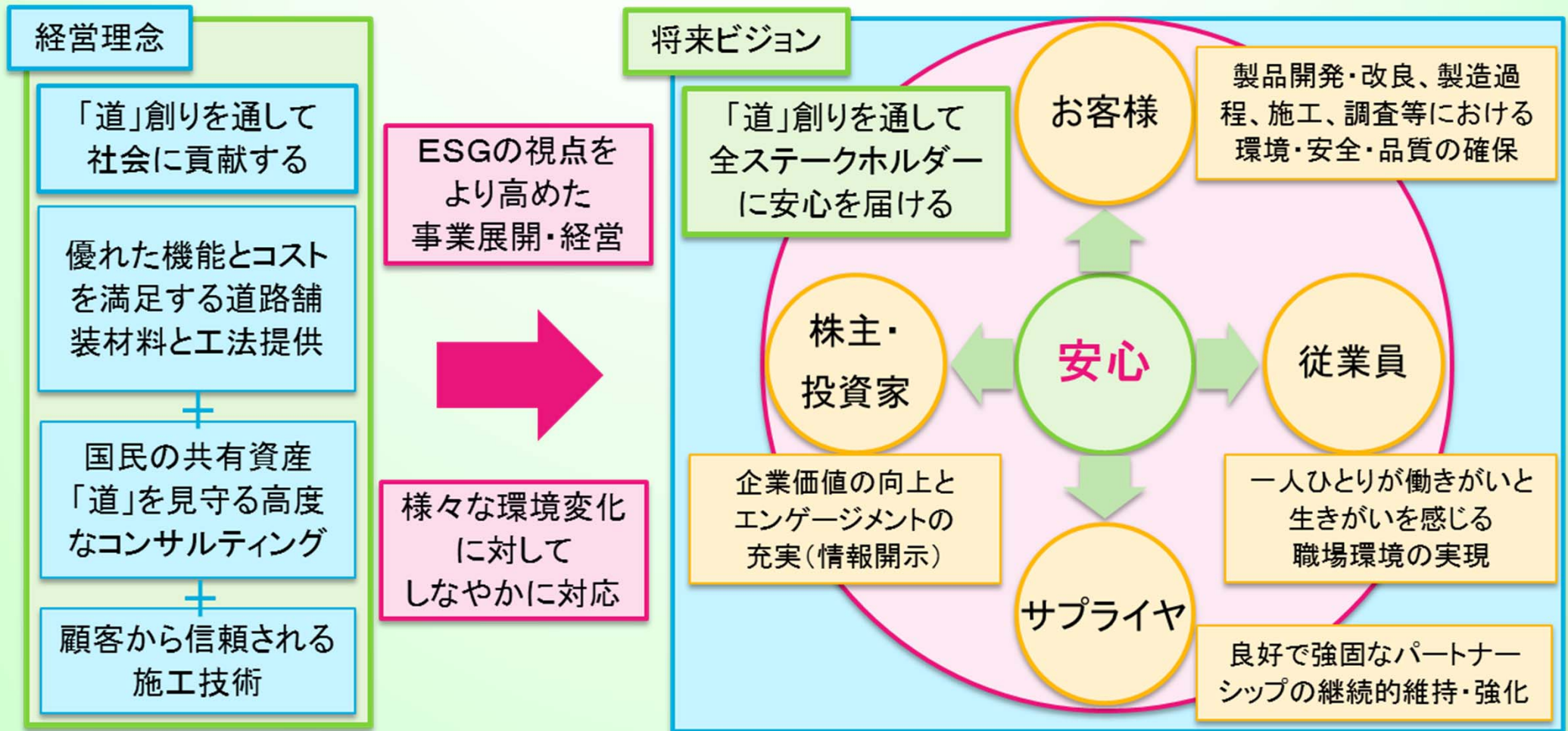
～組織レジリエンスの高い企業へ～

大規模かつ速い速度で進行していくことが想定される様々な環境変化に対して、迅速かつ的確な意思決定のもと、組織が一丸となってしなやかな対応を図り、持続可能な企業グループへと成長する。

本計画の位置付け



創業100年(2043年)将来ビジョン



当社をめぐる経営環境



- ① 公共投資、政府の施策動向（防災・減災、国土強靱化対策等）による影響
- ② 自然災害、感染症等による経済への影響
- ③ 原材料価格の変動および供給動向
- ④ 自動運転社会やDXがもたらす新しい社会への対応
- ⑤ 脱炭素社会など環境変化への対応
- ⑥ 企業の社会的責任（ESG・SDGs等）の増大
- ⑦ 新たな働き方、労働力人口の減少、高齢化等への対応

重点施策

- (1) 市場の拡大と深耕、そして市場への定着
- (2) 研究開発力の強化と生産性の向上
- (3) グループ経営基盤の強化
- (4) 脱炭素社会実現へのESG(環境)投資促進

重点施策(1)

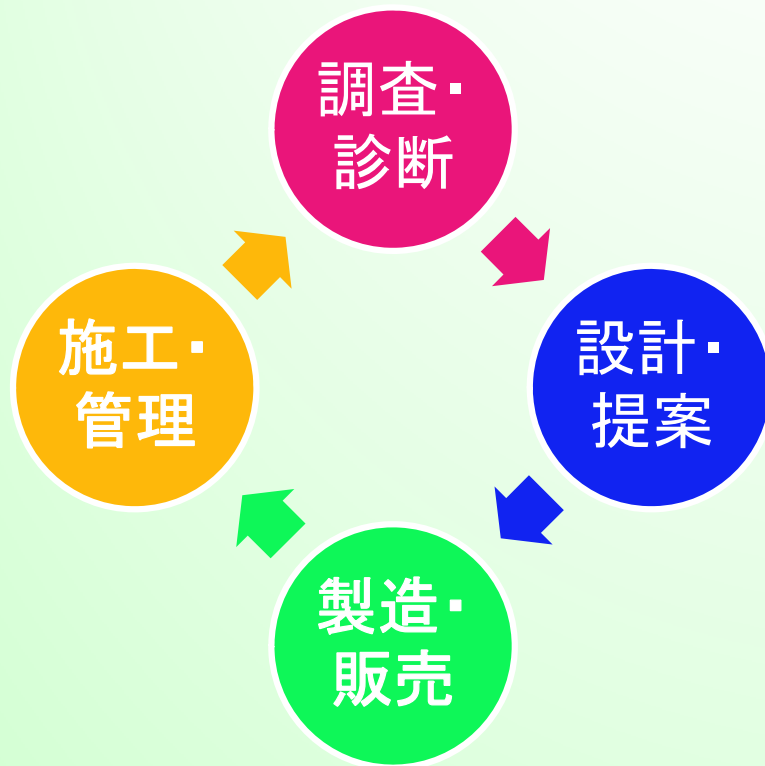
市場の拡大と深耕、そして市場への定着

- ◆ 市場の拡大と深耕の継続による、
自社開発・製造の製品・工法の定着
- ◆ 長寿命、リサイクル、CO₂削減、安全
などの性能・機能を有する環境に
やさしい自社製品・工法の販売推進



ビジネスモデルにおける強み

舗装に関わる一連の流れを高度にシステム化



- ◆ 優れた機能とコストを満足する道路舗装材料と工法提供
- ◆ 国民の共有資産「道」を見守る高度なコンサルティング
- ◆ 顧客から信頼される施工技術

市場の拡大と深耕、そして定着

- ◆ 多様な顧客
国、都道府県、市町村、
高速道路会社、民間、...
- ◆ 潜在的な道路舗装市場
橋梁、空港、港湾、農林、
河川、鉄道、下水道、公園、...
- ◆ 多彩なメニューを提供

拡大

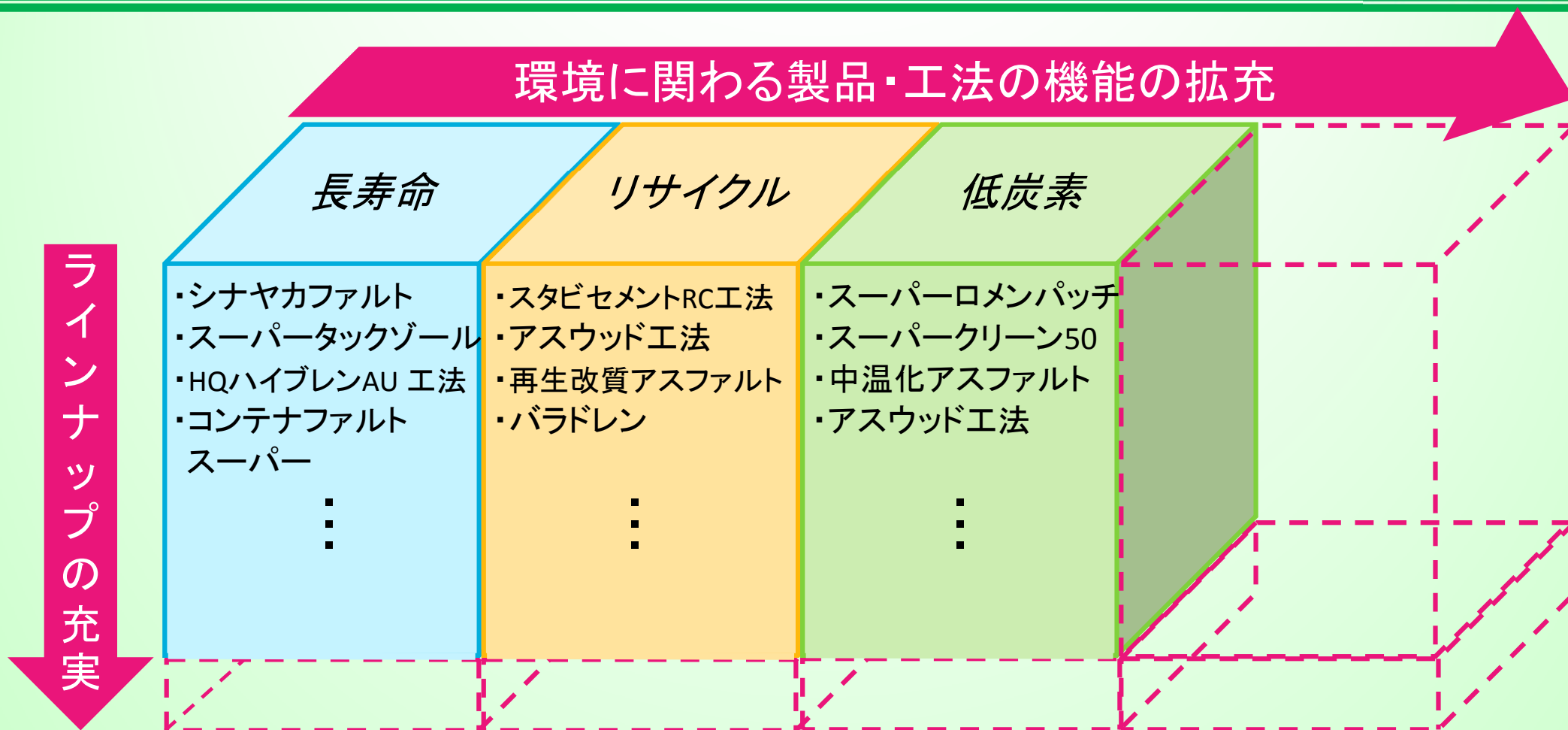
深耕

リピーターを
増やす

定着



高付加価値な製品・工法の提供



環境への取り組み紹介をHPに新設



トップページ



環境ページ



※2021年6月下旬公開予定。画像はイメージ

重点施策(2)

研究開発力の強化と生産性の向上

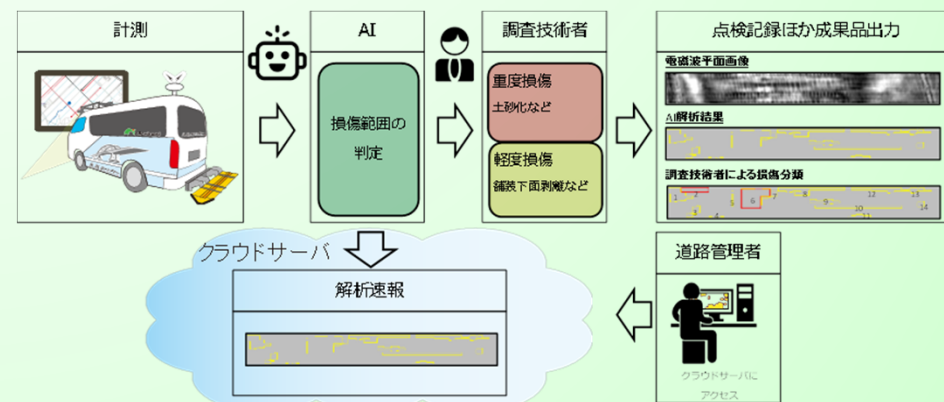
- ◆ 他分野の技術の積極的な取り込みと
自社技術の発展による、革新的な
製品・工法の開発
- ◆ 人やモノの有機的なつながりの強化
と、物流ネットワークの整備構築に
よる生産性の向上



研究開発による技術革新事例①

smart床版キャッチャー

- ◆ 電磁波とAIを組み合わせた技術により、橋梁を破壊せずに鉄筋コンクリート床版上面の損傷箇所を判定
- ◆ データがクラウドに即時アップロードされるため、迅速に判定結果を確認可能
- ◆ 高精度位置情報の採用で作業工数を削減。熟練技術者に頼らずコストダウンを実現

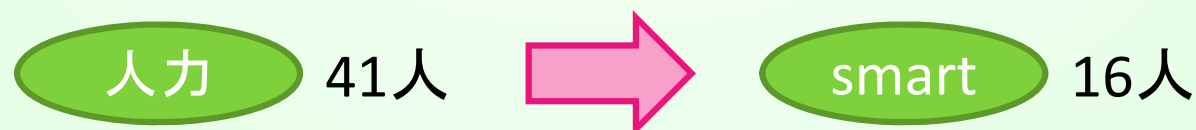


研究開発による技術革新事例②

smart路面点検サービス

◆ 従来人力で行ってきた現地調査、路面状況計測、路面画像解析の各作業を、IoTやAIを活用し大幅に効率化

- 100km程度の路面点検に必要な標準的延べ人数



研究開発による技術革新事例③

シナヤカファルト

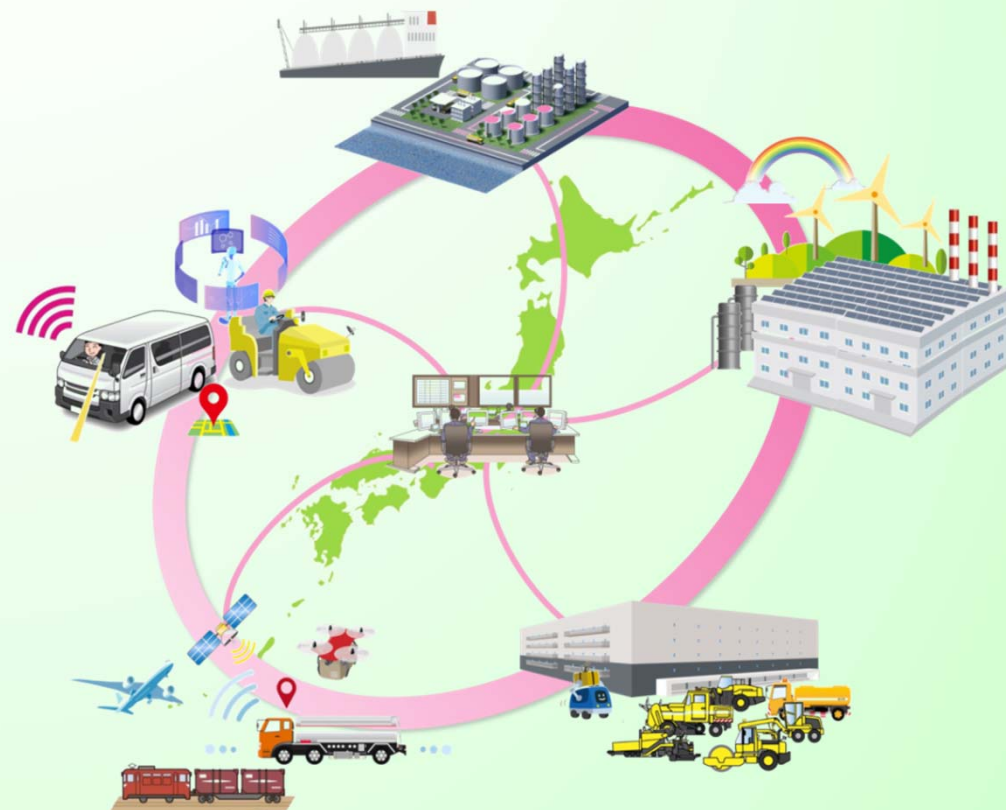
- ◆ 革新的な新素材の導入により、手で曲げられるほどの柔軟性と、交通荷重に耐えうる強靱性を兼備した特殊改質アスファルトを開発
- ◆ 従来品に比べ「ひび割れ」や「わだち掘れ」等、舗装の損傷の発生を長期間抑制



栃木県 国道4号バイパス

ネットワークの構築による生産性向上

- ◆ ビジネスサイクルの効率向上のため、デジタル技術を活用して全国の経営資源を有機的に結びつけ、全体を最適化
- ◆ 地域や部署を超えた柔軟な応援・協力体制の強化



重点施策(3)

グループ経営基盤の強化

- ◆ 企業価値の継続的向上のための、強靱な財務・経営基盤の構築
- ◆ 持続的な成長を支える人材の開発と育成
- ◆ ICTの整備・拡充とDXの推進



財務・経営基盤の強化



プライム市場移行に向けたガバナンス体制の強化

- 社外取締役比率1/3以上をはじめとする、コーポレート・ガバナンス・コードへの適切な対応
- 収益力・資本効率等の改善による業績向上

IR活動の強化

- 決算説明会の開催等、情報発信機会の充実
- 非財務情報（ESG等）を含む積極的な情報開示

人材の開発・育成

新しい人事制度の運用(2022年4月～)

- 65歳定年制の導入
- グループ人材の能力開発と適材適所の人材配置

組織再編による体制の強化

- 4統括エリア体制による経営効率化の推進
- DX、資本効率、物流改革を担う専門部署の新設



ICTの整備・拡充とDXの推進

ICT環境の整備とツールの活用促進

- Web会議や資料のペーパーレス化、テレワークの推進
- モバイル端末の活用に伴う情報セキュリティの強化

DXによる業務改革の推進

- 従来の業務手順・プロセス・人員配置等の抜本的な見直し
- 新たな基幹システムの構築を中心とする業務効率の改善

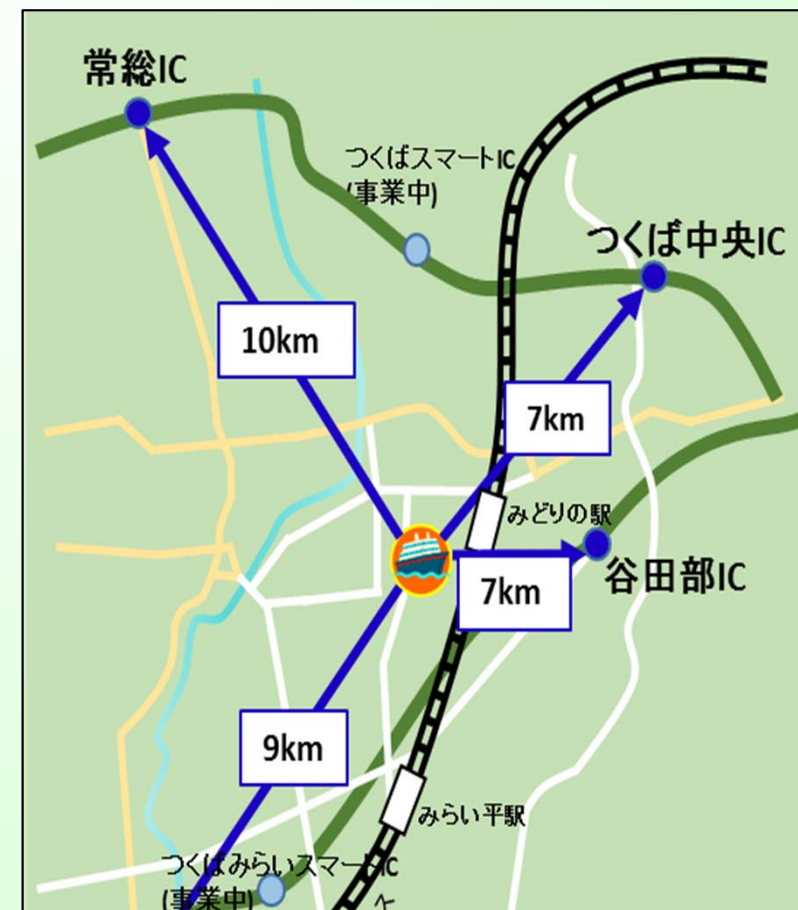
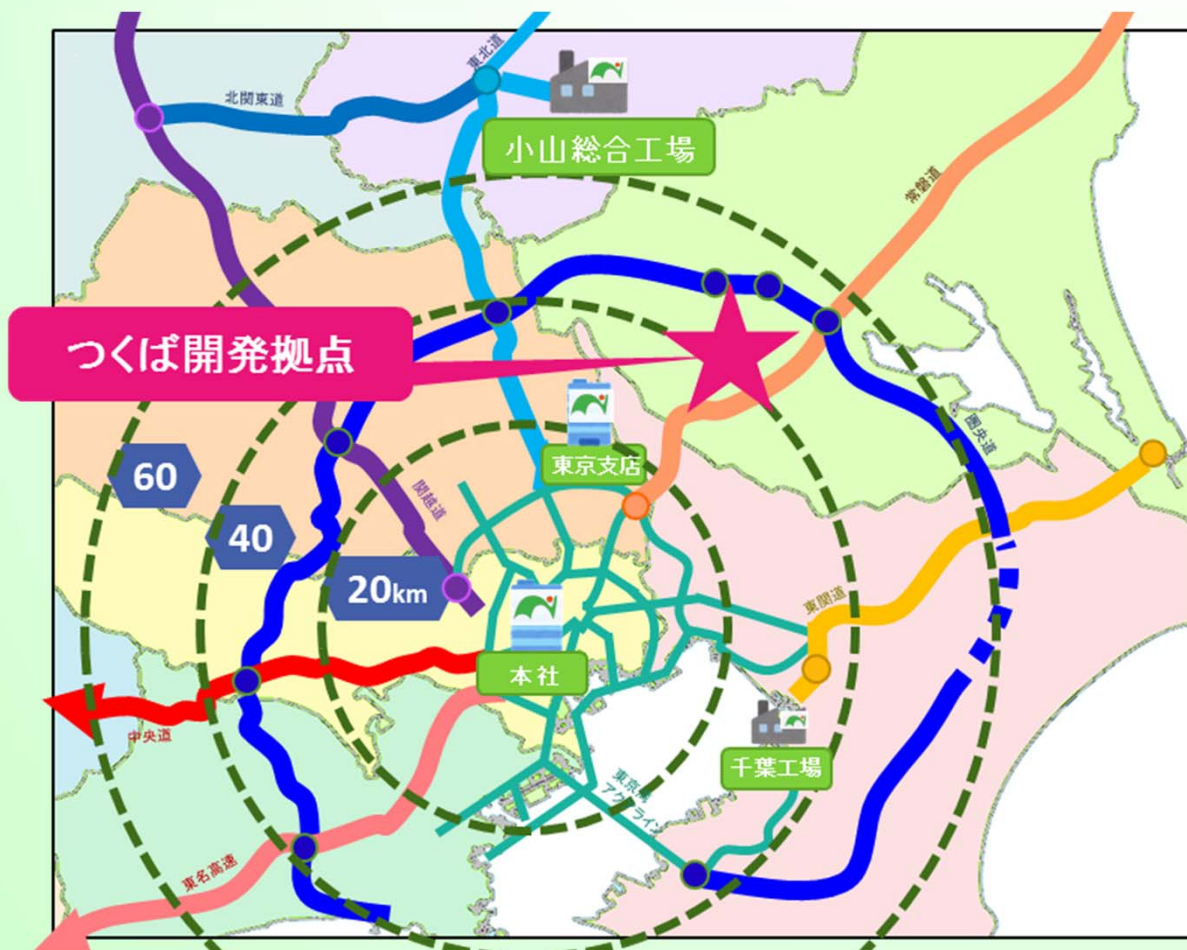
重点施策(4)

脱炭素社会実現へのESG(環境)投資促進

- ◆ 茨城県つくばみらい市に建設する環境配慮型の生産物流基地(つくば開発拠点)における、脱炭素社会移行への取り組み
- ◆ ハイブリッド車への更新や、既存建物・設備の改修によるエネルギー消費量の削減



つくば開発拠点へのアクセス



つくば開発拠点のコンセプト①

創業100年を見据えた新工場の建設

様々な環境変化や将来のニーズに応える新製品の製造に対応可能な、脱炭素等を意識した環境配慮型生産拠点の構築

BCP(事業継続計画)の強化

製品供給の社会的責任を果たす上でのリスク分散の観点から、生産のメイン拠点を2箇所に増強(ダブルコア戦略)

つくば開発拠点のコンセプト②



物流と車両・資機材の中核拠点化

製商品の倉庫群と効率的な全国的配送システムセンターおよび、舗装の調査・施工車両や各種資機材のモータープールの整備

地域活性化に向けた取り組み

周辺の環境や景観に配慮した事業活動の展開と、雇用の創出やCSR活動等を通じた地域の経済・社会発展への貢献

経営成績目標



2025年度目標(連結)

売上高	77,000百万円
営業利益	7,800百万円
経常利益	8,000百万円
ROIC(投下資本利益率)	6.5以上
ROA(総資産当期純利益率)	5.0以上

ESGに関する取り組み(環境)①

環境(Environment)



～ニチレキのビジネスモデルそのものが、ESG(環境)の追求～

◆ 環境配慮型製品・工法の紹介

シナヤカファルト

柔軟性と強靱性を兼備した特殊改質アスファルト。「ひび割れ」、「わだち掘れ」等、舗装損傷の発生を長期間抑制。



長寿命

スーパータックゾール

従来品より養生時間を大幅に短縮した乳剤。舗装と下層の接着強度が高く、舗装の長寿命化に寄与。



ESGに関する取り組み(環境)②

リサイクル

スタビセメントRC工法

古くなった舗装の大部分をそのまま現場で再利用。省エネルギー・省資源でCO2排出の抑制にも貢献。



アスウッド工法

透水性や衝撃吸収性を有するウッドチップ舗装。間伐材や建築廃材が使用でき、人にも環境にも優しい舗装。



低炭素

スーパークリーン50

混合物の製造・施工時の温度を通常から50℃低減できる改質アスファルト。CO2排出を大幅に抑制。



スーパーロメンパッチ

段差等、小規模な舗装補修に使用。機材の使用や交通規制による渋滞が最小限で済み、CO2排出を抑制。



ESGに関する取り組み(社会)①

社会(Social)



- ◆ 災害時における復旧支援等、グループ会社による地域・地元貢献
- ◆ 研究開発・営業・調査部門における女性および外国人の積極的な採用
- ◆ ICTやDXによる業務効率改善を通じた、働き方改革の推進
- ◆ 職場環境改善のための拠点リニューアル投資
- ◆ 安全組織体制の強化と教育の徹底、事故撲滅に向けた各種施策
- ◆ 外部パートナーとの共同研究開発の推進、戦略的な特許の申請・維持

ESGに関する取り組み(社会)②

- 取り組み事例
グループ会社による自然災害時の被災地への支援活動



日瀝道路(株)
東日本高速道路株式会社様より



東北ニチレキ工事(株)
宮城県大崎市様より

ESGに関する取り組み(ガバナンス)



ガバナンス(Governance)



- ◆ 法務・コンプライアンス部門の組織体制の強化
- ◆ 女性役員比率の向上
 - 社外取締役・・・4名中2名、社外監査役・・・2名中1名
 - グループ会社役員への女性登用
- ◆ 広報担当部門の強化による、对外情報発信機能の充実

ESG指標目標

項 目	2025年度 目標	2043年度 目標	対象ステーク ホルダー	SDGs マッピング
環境配慮型製品・ 工法の売上比率	30%以上	80%以上	顧客	
新製品・工法開発 (改良含む) 上市件数	10件以上	40件以上		
年間残業時間	640時間以下	360時間以下	従業員	
有給休暇 年間取得日数	付与日数の 5割以上	付与日数の 9割以上		
共同研究開発 上市件数	2件以上	10件以上	サプライヤ	
経常利益率	10%以上	10%以上	株主・投資家	
配当性向	25%程度	30%程度		

IV. 会社概要

会社概要



名 称	ニチレキ株式会社（NICHIREKI CO.,LTD.）
本社所在地	東京都千代田区九段北4-3-29
設 立	1949年9月
資本金	2,919百万円
代表者	代表取締役社長 小幡 学
従業員数	924名（連結、2021年3月31日現在）
事業内容	・アスファルト応用加工製品の製造・販売 ・建築・土木用資材の製造加工・販売 ・道路舗装工事・防水工事・上下水道工事、及びその他の土木工事の請負、これに関する調査・設計・監理 他

事業所・グループ会社 (2021年4月1日現在)



◆事業所

支店 : 11か所
営業所 : 37か所
出張所 : 12か所
工場 : 19か所
研究所 : 1か所



◆グループ会社

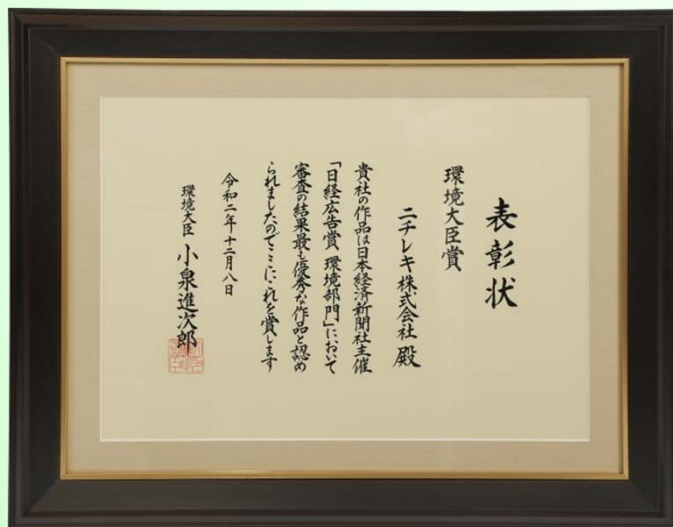
北海道ニチレキ工事株式会社
東北ニチレキ工事株式会社
日瀝道路株式会社
日レキ特殊工事株式会社
中部ニチレキ工事株式会社
近畿ニチレキ工事株式会社
中国ニチレキ工事株式会社
四国ニチレキ工事株式会社
朝日工業株式会社
九州ニチレキ工事株式会社
ラインファルト工業株式会社
日瀝(上海)商貿有限公司

他23社

トピックス①

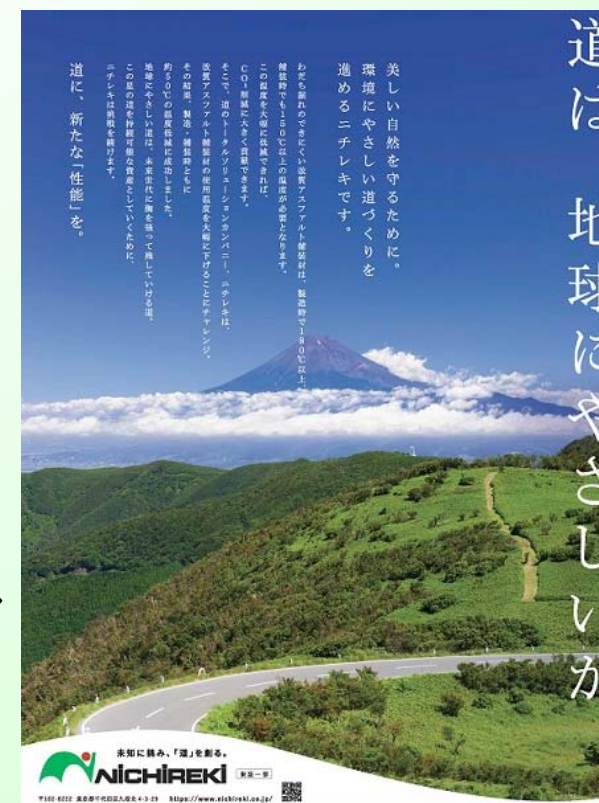
『第69回 日経広告賞(環境部門 最優秀賞・環境大臣賞)』受賞

当社が昨年7月14日、21日、27日の3週に
わたり日本経済新聞 朝刊に掲載したシリー
ズ広告が受賞。



昨年7月14日の→
掲載広告

← 環境大臣賞の賞状



トピックス②

『2020年度(第38回)IT賞』受賞

東日本電信電話株式会社および、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社と共同で開発を進めてきた「『smart 路面点検サービス』提供の取り組み」で、公益社団法人企業情報化協会主催の2020年度「IT賞(社会課題解決領域)」を受賞。



授与された表彰盾 →
← 共同開発企業様
との記念撮影



◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

◆ お問い合わせ先

ニチレキ株式会社 広報室 IR担当

TEL: 03-3265-1513 (8:30～17:30、土日・祝日を除く)

HP : <https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>